

共通教育 「保健体育科目」雑感

教育地域科学部 芸術・保健体育教育講座 田中 秀一

かつては「一般体育」と総称されて「実技」45時間1単位を2単位、「体育理論」と「保健理論」各15時間1単位を2単位、計4単位が1～3年生を対象に必修であった頃から、現行の共通教育「保健体育科目」の「体育」を担当して30年を超えました。あくまでも、担当した範囲の学生が対象でありかなり主観も入っていることをお許し頂き、抱いている感想を述べたいと思います。

毎年発表される体力・運動能力調査結果（文部科学省）のうち、とりわけ持久走能力と投能力について多くの大学1年生に相当する19歳を対象にした結果は、20年前と比較して低い水準にあってこの低下傾向は持続しているようです。本学でも文部科学省からの依頼が数年毎にあり、毎回調査に協力して測定を行っていますが、目を覆いたくなるような計測結果を示す学生がいるのも事実です。全体的に低下傾向を示し低い水準のようですが、本当に体力・運動能力は低下しているのでしょうか。低下している原因のひとつとして、生活習慣の変化やスポーツを実施する頻度の低下が挙げられていますが、5月～7月の測定時期も関係していると考えています。つまり、受験勉強に割いた時間が多くスポーツを実施する余裕が無いために、低下した体力・運動能力が測定時期までに回復していないのではないのでしょうか。

また、ずっと以前からもそうであったように、体力・運動能力の高い者と低い者が混在しているはずですが、しかし、どうも10年ほど前から中間層に属する者が少なくなり、運動部やスポーツ少年団等に加入して活発に体を動かす者（動かしていた者）と、体育の授業以外は体を動かさない者（動かさなかった者）の両端に二極化分布して、低い者が属する極が全体の水準を引き下げているように感じています。このことは、「保健体育科目」の実技を担当している際に、感じていることと関連づけることができるように思います。全員が驚愕するようなパワーや運動能力を発揮する学生がいる一方で、極端に劣っている学生も増えているようです。

共通教育「保健体育科目」のスポーツ種目選択は、得意であるから、巧くはないが中・高時代に経験があるから、

身体を動かすことが好きだから、等の理由で選択しているようです。その一方では、必修であるから、希望種目の定員からはみ出したから、希望種目が開講されないから、等のあまり積極的でない理由で選択した場合もあるようです。後者の理由で選択した学生には、「スポーツの実践を通して、健康・体力の維持増進、スポーツ技能の獲得・向上をはかる」という目的を説明しても理解するのはむずかしいようです。さらに、得意なスポーツ種目を持ってはいるものの、他のスポーツ種目への転移ができない者が目立つようになったと感じています。授業時間内での個人指導には限界があるので、授業後に誘っても授業以外ではしたくないと拒否されることも度々です。施設・用具・予算・教員の関係で、学生の希望を全て満たすことは不可能なことでありますが、不満を解消する努力も必要だと思っています。

運動場の状態について一言。隣接している小学校では、校庭で児童が遊んでいるのに、本学の運動場には「ぬかるみ」が何カ所も残り、使用できない事態が発生しています。身体を精一杯動かす楽しさ、動かせることを実感する喜びを持ち、特に三限目では授業開始時刻よりも早く運動場に集合した学生に、本日は教室に集合してくださいと伝える心情を察していただければ幸いです。

